



第407回 9/6(火)「大和地区日中友好協会」

会長 石井 功さん 会員 古木 せつ子さん

大和地区日中友好協会は昨年設立 30 周年を迎え、友好交流と文化交流の視点から中国語講座、交流コンサート、中国家庭料理教室、日中談話会など多彩な活動を続けています。石井会長は「政治体制は違えども人間同士の交流に国境はありません。このような情勢だからこそ両国の国民が仲良く交流し、互いの文化を高め合い未永く平和であるように祈りながら活動を続けています。」と語りました。

日中談話会・中国語講座など。
問合せ：080-5026-0177 (石井)



参加の対象は0歳児からOK。
「カムカムエヴリバディ!」と
呼びかけました。
問合せ：090-3504-6019 (川村)



第408回 9/20(火)「Story Time」

代表 川村 佳織さん 会員 佐々木 優韻さん

2016年9月に3名で設立し現在は5名のメンバーで、聴くだけの受け身的な読み聞かせではなく、素敵な挿絵の絵本や楽しい英語の歌を紹介し、みんなで一緒に声に出して英語の音やリズムに触れて楽しめる講座を開催しています。「お子様だけでなく大人の方、英語が少し苦手な方も絵本や歌を通して気軽に英語を楽しむことで新しい世界が開けます！」

参加の対象は0歳児からOK。
「カムカムエヴリバディ!」と
呼びかけました。
問合せ：090-3504-6019 (川村)

次回出演 409回 10/4(火)「市民活動グループ ごきげんカンパニー」・ 410回 10/18(火)「大和南京玉すだれ&ジャグリングクラブ」
FM やまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00 ~ 10:00 同日再放送 15:00~

TSUBASA's トーク 第12回「郷土芸能：鶏舞（とりまい）」

① 発表会

「花泉の方々に、練習してきた鶏舞を披露できて本当に光栄に思います。」

9月10日に岩手県一関市花泉町で行われた「キッズフェスタ」で、鶏舞の発表を終えてすぐイベント司会の方に呼ばれて息が上がる中マイクを持って感想を話した、ということがありました。

晴れ渡った空の下、地域の方々と参加した発表会では、それまで一番上手く舞えたこともあり清々しい気持ちになりました。



発表を終えて

② 鶏舞の説明

鶏舞は岩手県南と宮城県北に伝わる郷土芸能で、古事記の「岩戸開」に由来する舞です。

天の岩戸を天照皇大神が開いた時に、太陽を呼ぶ鳥といわれる鶏が一度に舞い上がって喜んだ、という様子を表現したもので、実際の舞でも鶏の頭を模した兜をかぶります。



発表会の様子

花泉町では主に小学校の高学年の生徒が習い、運動会などで披露しているそうです。

③ 続けてきた練習

こうした鶏舞について、僕は「永井地区郷土芸能伝承保存会」の活動に参加させてもらい、6月から毎週水曜の夜に1時間ずつ練習を続けてきました。練習では、地域の小学生や保護者のお母さんたちが公民館に集まり、昔大工さんだったという70歳くらいのベテラン先生の太鼓の演奏と生の歌に合わせて鶏舞を踊っています。

僕は初め、基本の動きを教わった後、通しの練習で周囲の方々の動きを真似していくように舞を覚えていきました。鶏舞は通しで10分以上にもなり、動きも跳んだり回ったりするので、「農作業の後にまた体を動かすのか…」と練習を憂鬱に感じる時もありましたが、地域の方々に囲まれて一緒に体を動かしていると、気持ちが晴れていく気がしました。



練習風景

④ これからの練習や発表について

今回の発表で鶏舞をもっと深めてみたいと思うようになりました。次は、11/6の地域のイベントで鶏舞と獅子舞を披露する予定です。獅子舞は初披露です。



獅子舞練習

(サポーター尾畑 翼)

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第183号 発行日：2022年10月10日

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>
<休館日 12月29日~1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyoudounokiyoten.com/

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

第183号 2022年10月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

10月号
2022

ペテルギウス玄関
10月4日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催
2022「第15回やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を掲載しています。

今回のテーマ 平和 ~いま私にできること~
やまと国際フレンドクラブ賞
上嶋 ラムショウ 天蒼 さん
中央林間小学校1年生(イギリス)

タイトル:「みんなと手をつなごう」

メッセージ:「たくさんのしぜんの中で、いろんなくにおともだちと、たのしくあそべるせかいにしたいです」

「やまと国際アートフェスタ」は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で毎年催されています。
*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

共育セミナー 第100回記念 トークセッション

ウイズコロナ、ポストコロナの時代の社会貢献活動 その4
多様化する社会に生きるということ

開催日時：10月29日(土) 午後1時30分から3時30分

開催場所：大和市民活動センター会議室1 (またはオンライン)

定員：会場参加8名、ZOOM参加25名

申込締切：10月25日(火)

ゲストスピーカー

松本義弘さん (一般社団法人多文化研修ラボ代表理事)

永井圭子さん (特定非営利活動法人ワークス・コレクティブチャイルドケア理事長)



ウイズコロナ、ポストコロナの時代
市民活動、NPO活動、社会貢献活動はどうあるべきか
先駆の人を訪ねて 第9回
すべての人々がフレームインできる社会を創る その2



小川 杏子（おがわ きょうこ）さん
NPO 法人パノラマ



事務所前に立つ小川さん
—やまひが朝カフェでは、ボランティアがパンをラップして提供

シリーズ第9回は、「すべての人々がフレームインできる社会を創る」をミッションに、「校内居場所カフェ」などの活動をされている「NPO 法人パノラマ」の小川杏子さんへのインタビューの2回目。今号では、どのように活動を継続していくのか、NPO が宿命的に抱える資金の確保をどのようにされているのか、神奈川県からの委託を受けて新しく取り組んでいる「朝食提供事業」などについてお伝えします。

テーションができないと、本来つながれた生徒とつながれない

今の高校3年生は、入学した年からずっと、コロナ対策をしている学校にいますので、カフェのオリエンテーションができないと、本当はカフェに来てくれて、つながれた生徒も多分つながれていないと思います。

ただ、一方でカフェがいつも通り開催できているのは、コロナ対策に配慮しながら、いいことはやりましょうというスタンスで学校がいてくれることが大きいと思っています。

— カフェについては、今後の課題というか、こんなふうにしていきたいと考えていることはありますか

以前のような形でやっていくっていうのだけが正解ではないような気がして。でもカフェがあり続けることが大事

カフェ自体は必ずしも、アフターコロナでは、以前の形でやって行くだけが正解でないような気がしています。

コロナによって新しく生まれた取り組みとして食べ物配布会っていうのをやっています。それは、大和東高校でも、定期化しようと思っているんですけど、フードバンクから集めた食べ物を定期的に生徒に持って帰ってもらう企画をカフェでやったり、カフェのバックヤードに食べ物を置いておくっていうものです。

また、生理用品とかを置いて、先生方に場所をお伝えして、自由に持って行ってもらい、必要な生徒がいたら渡してもらうということを始めています。この取り組みはコロナがあったからこそ生まれたもので、今後もカフェに加えて、食べ物を提供するとか、生徒たちの生活を間接的に支える取組みの可能性が広がったと思っています。

カフェに関しては、粛々とっていうと変ですけど、淡々とカフェがあり続けることは、すごく大事なことで、卒業生が戻ってくるんですよ。

— それは本当の居場所ですね

卒業生につながるしくみで、こういうカードを作ったんですが、お守りになっています

卒業生につながる仕組みで、カードを作ったんですけど、お守りの形になっていて、卒業生全員に配っていただいたんです。コロナで私たちは卒業式に出られなくなってしまったんです。これまでだったら、「おめでとう」て声をかけたり、今後の連絡をしたい生徒



卒業生全員に配っているパノラマ「お守り」カード

徒へはパノラマの連絡先を伝えられたんですけど、それがまったくできなくなっちゃったので、どうにか生徒たちにメッセージというか「なんかあったら、いつでも来てね」という思いを込めて作りました。「気軽に連絡してね」という感じで生徒たちのお守りになればということで。

このおかげで、卒業後に、カフェにボランティアしに来てくれたり、そのときにお菓子を持ってきてくれる子もいるんですよ。「後輩たちに食べさせて」と言ってるね。順繰りに巡っていく感がありますね。

こういう仕事ができるんだったら私もしてみたいな

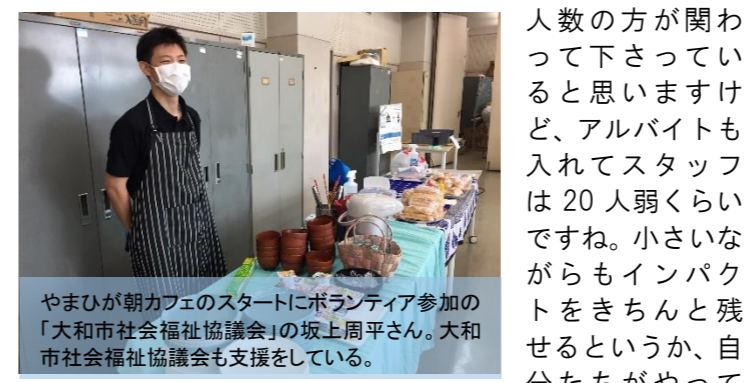
最初は、私も石井も多分、仕事をしてるって、生徒に思われてないんですけど、段々と、「えっ、これ仕事なの」みたいに言われて、卒業後に、「本当は自分も、こういう仕事ができるんだったら、してみたいな」という話をされることもあるし、「こういう場所があってよかった、すごいいい場所だった」というのを後からね、言ってくれる子たちもいます。

— 最後に、パノラマはどんな役割を果たしていきたいかみたいなの、ミッションとかをお話し頂けますか
パノラマは、根ざしてやっていきたいし、中身の詰まった、人とちゃんとかかわりがあるような支援を作っていきたい

パノラマ自体は横浜の北部エリアでシームレスな切れ目がない支援、子どもたちから40代以降までのいわゆる引きこもりの方たちの支援を地域に根ざして、一つのモデルとしてやっていくことを目標としています。団体の活動が広がると、落下傘型で多地域の仕事も請け負っていく団体が多いんですけど、パノラマは、そうではなくて、地元で根ざしてやっていきたいなあっていうのがすごくあります。その意味で、横浜北部エリアを中心に、中身の詰まったというか、人とちゃんとかかわりがある支援を作っていきたいと思っています。

— スタッフの方は有給ですか
20人弱います。はい有給です。アルバイトスタッフも含めてですけど。あと、ボランティアさんがたくさんいます

ボランティアさんがたくさんいてくださるので、すごい



やまひが朝カフェのスタートにボランティア参加の「大和市社会福祉協議会」の坂上周平さん。大和市社会福祉協議会も支援をしている。

人数の方が関わって下さっているとありますが、アルバイトも入れてスタッフは20人弱くらいですね。小さいながらもインパクトをきちんと残せるというか、自分たちがやってきたことを言語化して、発信して行くことによって、社会的課題とか、私たちが見えている課題とか、制度の隙間みたいなことをきちんと提言というか、言葉にしていくことを大事にして続けることが、巡り巡って、子どもたちとか若者の状況を改善することにつながっていくんじゃないかなと思っています。

— 認定NPOを取ろうとされていると伺いました

自分たちが、ここ手が届いてないなって思う時って、いろんな制度の隙間のことで、解決するためには、ある程度自分たちの財源を持ってないと動けないことっていうことがたくさんあって

今回認定NPOを目指そうって話になったのも、今まで助成金とかで回して来たんですけど、パノラマの手が届いてないなって思う時って、いろんな制度の隙間のことが多くて、そこを解決するためには、ある程度自分たちが財源を持ってないと動けないことっていうことがたくさんあります。そういう突発的な緊急支援が必要ときに財政基盤を安定しておくことで、「これは自分たちができないね」というのではなく、どうにか解決していけるような形にして行きたいということで、今回、認定を取って、寄付を集めるってところに力を注ごうというのがあります。

— メリットは 寄付を集めやすいってことですか
税制控除が受けられるかどうかって、後につながることに関係してくると思うので 受け皿を用意しておくって意味もあって 認定NPOを取ろうということになりました

そうですね。今までも会社さんとかからも寄付いただいたことがあったんですけど、その時に税制控除受けられるかどうかって、その後につながることに関係してくると思うので、受け皿を用意しておくという意味もあって、認定NPOを取ろうということになりました。

これまでパノラマは寄付募集下手というか、目に見えて、生徒の手にわたるものの寄付がとでも多かったんです。「物」での寄付がすごく多くて、それはすごくありがたいことなんですけど、お菓子とかジュースとかを皆さん寄付してくださるんです。でもお金となると、少しハードルが上がるというか。やっぱりお金で渡すというよりも 生徒のためにというところがあったので、もう少し丁寧に、こういう理由で「寄付をお願いします」というのを発信するきっかけにもなるかなと思っています。

たぶん、いろいろ助成金を取るためには、新規事業を立ち上げて、回らなくなると人件費を捻出するために、また新しい助成金取るってことになり、新規事業の立ち上げがいつの間にか自分たちがやりたいこと以上に、どんどん広がって大変になっちゃってことがあるので。

— よくわかりました。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。パノラマさんが新しく県から受託された「やまひが朝カフェプロジェクト」がパノラマさんの新たなステップとなることを祈念しております
ありがとうございます!!

編集・文責・写真:船越英一



—カフェでは、インスタントだけど温かいスープも提供。冬場は身も心も温まる一杯。一杯で済まない生徒も多数。男子は。

NPO 法人パノラマでは、大和東高校での朝食提供事業を県教育委員会から委託を受けて実施しています。詳細は、パノラマまでお問い合わせください。
TEL:080-6840-8395
mail: border.cafe2017@gmail.com QRコード →